

「集いの場」の拡充に向けて

課題	ヒント	第3回協議会で出された意見	今後の展開
場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・地区福祉委員会への協力一覧（吹田市社協施設連絡会） →場所や職員派遣が可能77施設 ・介護保険等サービス事業所アンケート調査 →場所提供：可能60件、要相談78件 職員派遣：可能46件、要相談126件 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の施設としては、助け合い活動のメインにはならないかもしれないが、場所の提供や人材の派遣により、地域貢献していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設連加入施設に地域貢献について福祉委員会以外への対象拡大について、意向確認をし、場所の提供などをしてもらい、「集いの場」の拡充を目指していく。
担い手の不足	<ul style="list-style-type: none"> 【我が事・丸ごと】 【元気な高齢者の社会参加】 「スタッフ」と「参加者」という役割を分けるのではなく、みんなで取り組んでいく。 【人づくり】 地域活動の担い手の不足が課題。解決のキーワードは、「楽しい・おもしろい・やりがい」というような活動を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢クラブは、たくさん的人数が所属し、健康な方も多いので、地域活動の担い手となってもらえるのではないかな。 ・現在の「集いの場」リストは、それぞれの活動の内容やテーマが分かりにくい。活動内容などが分かりやすくなれば、探しやすくなるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢クラブを対象に、地域での支え合い活動について、相談をかけていく。 ・「集いの場」リストを活動のテーマが分かりやすくなるように構成を見直す。 →資料3を参照
内容のマンネリ化	<ul style="list-style-type: none"> 【参加者を増やす工夫】 多くの方が、「健康」に関して関心が高い。地域で「健康」に関することができないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今活動をしている方々に、活動目的を伝えていくことが大事。活動に参加することで健康づくりや地域の活性化につながっていることなど、自分の活動に意味づけすることでモチベーション向上につながるのではないかな。 ・高齢者生きがい活動センターではいろいろな講座をしており、そのつながりを活かし、地域活動の中でも講師の紹介ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集いの場交流会を通じて、現在集いの場の活動を担っている方へのモチベーションアップにつながるお話しや情報提供をしていく。 ・それぞれの集いの場の活性化を図るために、内容や場所についての相談を生活支援Co.が受け付け、地域包括やCSWとともに対策を検討する。
「集いの場」に関する成果	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉施設の地域貢献として取り組んでいる場所の提供や職員派遣などの情報のとりまとめを行った。 ・「集いの場」交流会を通じて、活動する上での課題やさまざまな工夫点を共有し、それぞれの活動の参考やネットワーク化を図りました。 		

「助け合い活動」の創出に向けて

課題	ヒント	第3回協議会で出された意見	今後の展開
<p>高齢者の困りごとの把握</p>	<p>【高齢者の困りごとの見える化】 地域包括支援センターやケアマネジャー、ヘルパーが高齢者からよく聞く「ちょっとした困りごと」を挙げることで、メニュー化につなげていくことができないか。</p> <p>【地域での助け合い活動のマッチング】 高齢者の困りごとのメニュー、リストがあれば、「地域住民」が支援できる内容、できる時間を選んで支援できるのではないか。</p>	<p>・高齢クラブの友愛訪問の際に、何か困っていることはないかと聞いてみてはどうか。</p> <p>・現状では、困りごとを聞いても支える仕組みはないが、何か仕組みがあれば、「支える側」として活動したいという人も増えてくるのではないか。</p> <p>・「集いの場」の拡充は必要だと思うが、そこから助け合い活動へ結びつけるには工夫や働きかけが必要で、まずは困りごとの声を拾い上げることからできないか。</p>	<p>・元気な高齢者が地域の高齢者を支えていく視点で、支え合いの活動を検討する。</p> <p>・ボランティアセンターと連携し、生活支援をテーマにしたボランティア養成講座の実施について検討する。</p> <p>・「集いの場」、サロン、昼食会の参加者から困りごとの把握を行う。</p>
<p>コーディネート・マッチング</p>		<p>・地区福祉委員会や高齢クラブ、ボランティア連絡会の中で、コーディネートをしてくれそうな方の人材育成のカリキュラムを実施してはどうか。</p> <p>・市民から広く地域の支え合い活動のリーダー募集をし、講習を受けてもらい、地域に配置をすることはできないか。</p>	<p>・人材育成カリキュラムの実施を検討する。</p>
<p>その他</p>		<p>・この事業は、市民が自分たちの問題として考えていく主体性をどう高めていくかを考えていく必要がある。</p>	<p>・さまざまな機会でのこれからの「住民主体」の支え合いの機運を高めていく周知、広報が必要。各地での「高齢者のこれからを考える交流会」や勉強会などの開催やまた、生活支援コーディネーターの活動を周知していく広報などにも力を入れていく。</p>